

「チベット - 流血にあえぐ大東亜の盟友-」 酒生文弥  
Tibet, A Great East Asian Friend with Bleeding Lessons for Japan

## 「チベット - 流血にあえぐ大東亜の盟友-」

Tibet, A Great East Asian Friend with Bleeding Lessons for Japan

酒生文弥

### 4つの民族を侵略し続ける中共

戦後、中国はことあるごとに大日本帝国の中国侵略を非難して来ました。しかし真の近代日本は、堂々と世界に大日本「帝国」を宣言し、植民地化ではなく、欧米から植民地を解放する「五族協和の大東亜共栄圏」をめざしてアジア・太平洋に進出したのです。しかるに現代、大まかに言っても朝鮮自治区・内蒙古・ウイグル自治区・チベット自治区という4つの他国領土を侵略し支配しているのが中国共産党政権（中共）です。根底には、中華思想に基づく他民族蔑視と隷従化の野望があります。「一君万民の平等な皇民化」を進めた日本とは、動機において天地の開きがあります。

20年あまり前、タイガー・バーム 3代目当主夫人・胡曉子（おう・あきこ）さんにシンガポールに招かれ、ブレーンのひとり黄さんと懇談しました。当時まだ真実の近現代史に疎かった私が「遣唐使で師と仰ぎながら中国を侵略してしまい申し訳ない」と話すと「日中戦争は内戦だったんだからいいですよ」と返答。「内戦って？」と訝ると「日本も漢字を使う中国文化圏じゃないですか。新屋が母屋にたてついただけです」と。唾然として二の句がつけませんでした。台湾出身・東京帝国大学卒の黄さんでさえ真顔でこう言い放つ。中華思想の何たるかを思い知りました。

尖閣への威圧・南沙諸島に軍事基地建設など、近年の中国の海洋進出は我が国の安全保障を露骨に脅かしつつあります。本稿で「自治区」チベッ

「チベット - 流血にあえぐ大東亜の盟友-」 酒生文弥  
Tibet, A Great East Asian Friend with Bleeding Lessons for Japan

トの侵略・支配の現実を概観し、日本が直視して警戒すべき「解放工作」の恐ろしさを考察し、改憲し再興すべき日本の姿を展望します。

## チベットと日本の長く深い絆

「遺伝人類学的に人種 (race) はありません。約 20 万年前アフリカ東北部で現生人類 (ホモサピエンス・サピエンス) が進化誕生 (「アフリカ人」 俗称・黒人)。7 万年前ようやく「出アフリカ」を果たして「西ユーラシア人」 (俗称・白人) となり、その後 3 大ルート (シベリア・中央アジア・南方島嶼) でユーラシアを東にグレート・ジャーニーしました。約 4 万年前、東端の吹き溜まり日本列島に到達しました。「東ユーラシア人」 (俗称・黄色人種) の中でも、人類全体の「アマタ (多様・多元)」の文化的・遺伝的要素を「大」きく「和」して「大和」民族が生まれました。」福井県立藤島高校同窓の畏友・斎藤成也国立遺伝学研究所教授はこう明言します。科学は人種を認めませんが、上記 3 類型など民族 (生物でなく言語・文化による集団) ごとのバリエーションは説いています。現代日本人特有の遺伝子ハプロ B、これをいちばん共有するのがチベット人です。1985 年秋、カリフォルニア大学大学院生だった私はサンタ・バーバラに講演に来られたダライ・ラマ 14 世と邂逅。第 1 印象は日本人そっくりのお顔だちでした。実際、チベット人は日本人に近い親戚なのです。

1642 年、ダライ・ラマを長としラサを本拠とする「ガンデンポタン (チベット政府)」が成立。ガンデンポタンは、チベット仏教 (密教) に基づく政教一致の政体で、我が国の「国体」に似ています。現在のガンデンポタンはインドのダラムサールに本拠する「チベット亡命政府 (1959 年～CTA: Central Tibetan Administration)」です。2011 年の「亡命チベット人憲章」は、ダライ・ラマ 14 世を「チベットとチベット人の守護者であり

「チベット - 流血にあえぐ大東亜の盟友-」 酒生文弥

Tibet, A Great East Asian Friend with Bleeding Lessons for Japan

象徴」としロブサン・センゲを政治最高指導者（シキョン）とする「立憲法王制」を標榜しています。1961年チベット憲法（暫定憲法）が起草され、63年・92年と民主的に改正されています。

チベットの国旗は、パラオやバングラデシュ等と同様、日本がモチーフです。1920年、チベット研究者・青木文教とチベット軍司令官が、チベット軍旗の「雪山・唐獅子・日月」に日本軍の「旭日旗」を配して戯れに作図しました。これをダライ・ラマ 13世が、日清・日露で勝利した日本への尊敬と民族独立の願いを込めて、国旗に制定したのです。

対米開戦前、経済制裁に苦しむ日本をチベットは大量の羊毛の輸出で支援しました。開戦後も、ダライ・ラマ 13世は連合側への補給路確保要請を拒否し中立を通しました。この毅然たる態度がのちに国連がチベット侵攻を黙殺する悲劇に繋がります。インドはじめアジア欧米植民地の多くが連合側に動員される中、対日中立を堅持したチベット。大東亜の盟友です。

## 中共のチベット侵略と隷属

### 【前史と帰結】

1732年、清の雍正帝はチベットを西藏（ラサを核とする中央チベット）・青海（アムド地方西武・中央部、カム地方北部）・隣接三省（甘粛・四川・雲南）の3つに分割しました。19世紀ガンデンポタムは、青海の回民（イスラム教徒）大反乱や四川省戦乱で清を助け、チベット全土の統一を目指します。しかし、カム地方東部は四川省を経て新設・西康省に編入されるなど、清、次いで中華民国との間で版図の綱引きが続きました。

1949年中華人民共和国成立。中共はこの「歴史的なヒビ」を巧みに戦略利用して、周囲から中央へと巧みに略取を進め、チベット全土の制圧・併合

に成功しました。

★教訓：領土問題において、沖縄・対馬・竹島・北方領土・等々「歴史のヒビ」を放置することは命取りです。真実を開顕する『ブレない歴史戦』を真の愛国心で闘い抜くことが必要不可欠です。

#### 【人民解放軍のチベット侵攻】

1949年10月1日、毛沢東の中国共産党は国共内戦に勝利、中華人民共和国が成立、6週間後、人民解放軍はチベット東部国境に集結しました。

1950年元日ラジオ北京は「パンチェン・ラマ10世の要請で」チベット開放の用意があると放送。パンチェン・ラマ10世は「転生を中共政権が悪用」した傀儡です。漢人優位の街から徐々に確保し、自動車道建設・地形情報収集など周到に事前準備して、10月7日から4万の兵で1万あまりのチベット軍を圧倒。10月24日要衝チャムドを陥してまずチベットの「分断」地域を制圧。ラサ政府は国連に訴えましたが、戦中の対日中立堅持などもひびいてチベットの独立は承認されませんでした。朝鮮戦争に追われていた国連はラサ政府の切実な訴えを黙殺しました。対するに中共は「僧侶に歓迎される解放軍兵士」の写真など、国際社会へのプロパガンダに余念がありませんでした。

中共は、1951年5月チベット使節を北京に呼び寄せ、無条件併合条約である「十七か条協定」を強引に調印させ、国際法の外堀を埋めていきます。1951年11月、「チベット全域解放作戦」を発動、新疆・青海・チャムド3方向から一気に人民解放軍をラサに進軍し無血開城。ダライ・ラマを武力で脅して「十七か条協定」を発効させました。チベット全土が制圧され、中共の属国となったのです。

★教訓：真実の近現代史を踏まえて、我が国領域の正当性をたえず国際社

会に訴えましょう。いっさいの妥協はなりません。国民全員に健全な愛国心を育成し、自立した強力な軍事力を保持し、断固たる戦略・戦術で日本を守りぬきましょう。

### 【チベット動乱】

1951年チベット全土を併合すると、中共はただちに分割が続き脆弱だった周辺地域から「社会主義改革」と漢化（民族撲滅）を強要していきます。当然ながら、1956年アムド地方・カム地方などから抗中蜂起が全面勃発。1959年に頂点に達する「チベット動乱」が起こります。

56年末の第1次蜂起（ギャンダ・ゾン蜂起）は鎮圧され、57年西藏に避難した難民・ゲリラは57年、ゴンポ・タシ率いる統一抗中ゲリラ組織「チュシ・ガンドゥク」を結成。冷戦構造の中、CIAの軍事支援も受けてゲリラ戦を展開しました。

中共は解放軍を一挙に投入し、20000人を殲滅して57年末平定。翌年にかけての第2次蜂起も5500人が殲滅され年末に鎮圧。58年3月から8月のチベット人130000の反乱も、110000人が殲滅され50000人が逮捕（45000人は誤認逮捕、うち25000人を殺害）。これが、青海省のチベット・モンゴル総人口の10%が殺された「青海省虐殺」です。

### 【1959年蜂起とダライ・ラマ亡命】

動乱で東部に増派された人民解放軍は、村々や僧院を制裁攻撃し、「ポタラ宮やダライ・ラマ14世を爆撃する」とさえ脅しました。1959年3月10日、中国機関から「まるごしでの観劇」に誘われたダライ・ラマを暗殺から護るために、30万のラサ市民がノルブリンカ宮（夏の離宮）を包囲しました（「1959年チベット蜂起」）。3月12日には「チベット独立を宣言」。しかし、3日間で10000から15000人のラサ市民が殺されました。中共の記録

「チベット - 流血にあえぐ大東亜の盟友-」 酒生文弥  
Tibet, A Great East Asian Friend with Bleeding Lessons for Japan

にも、1959年3月から1962年3月に中央チベット（西藏地域）だけで93000人を「殲滅」とあります。これが「中央チベット虐殺」です。

3月17日、解放軍は宮殿近くを砲撃、ダライ・ラマ14世は脱出してインドに亡命。民衆80000人も法王に付き従いました。

### 【容赦ない民族浄化と文化撲滅】

進駐当初こそ解放軍は「人民の物は針一本盗らない」と紳士を演じましたが、僧侶や知識人を巧みに洗脳してプロパガンダに動員しながら、唯物論共產主義の冷酷な本性は少しずつ残忍な牙を剥いて行きます。

1950年から今日に至るまでで120万人のチベット人が虐殺されました。チベット人口600万人を考えれば恐るべき数字です。反抗的な僧侶は還俗させて拷問や晒しものにされ、「読経できても説法は許さない」という形で仏教を形骸化します。750万人もの漢人を移住させ、チベット人女性に強制結婚させ「民族浄化」を着実に進めています。教育は中国語のみで行い、言語と文化の抹殺を謀っています。いまやチベット人は母国にいながら少数派に転落しています。

今日に至るまで、僧侶など、悲観した多くのチベット人が焼身自殺で抗議を続けています。あまりにも悲しい現実です。

ダライ・ラマ駐日事務所初代表のペマ・ギャルポ教授は、対日「解放工作」の究極目標には天皇陛下暗殺さえ入っていることを暴いています。

★教訓：つぶさにお伝えできず残念ですが、中共の「解放工作」（侵略プログラム）は極めて用意周到で冷酷無比に断行されます。「自治区」での拷問・虐殺・民族浄化・文化破壊（漢化）。盟友チベットが血を流して教えてくれている残酷な現実。直視して、貴重な教訓と仰いで日本破壊工作を敢然と全面阻止しなければなりません。

★教訓：左翼「お花畑理想主義」には夢にもおぼれてはなりません。毛沢東 6 千万、スターリン 4 千万、ポルポト数百万人、彼らは「同胞」さえ虐殺しました。まして他民族をや。繰り返しますが、人口 600 万のチベット民族、すでに 120 万人が虐殺され、750 万もの漢族「入植者」に圧殺されています。特亜三国からの「移民」も、土地や水利などの外国人所有も、極めて危険な亡国への工作です。絶対に看過してはなりません。

真の平和を築くためには、強力な軍事力に裏づけられた「真の保守主義」「透徹したリアリズム」を粘り強く積み重ねて行くしかありません。

#### 【チベット近未来の懸念と日本がなすべき支援】

ダライ・ラマの位は輪廻転生を前提に継承されます。現在のパンチェン・ラマ 10 世は中共に洗脳された人物です。インドに政権ごと亡命し 1959 年 4 月 29 日に発足したチベット亡命政府 (CTA)。ダライ・ラマ 14 世を元首に、「真の自治」実現を非暴力に徹して国際社会に訴え続けています。1989 年ノーベル平和賞を受賞されたダライ・ラマ 14 世も 80 歳を超えられました。容易に懸念される中共の次なる謀略は「転生を悪用して傀儡法王を擁立する」ことです。我が国は、宗教界などを中心に結束して、現在および未来のダライ・ラマと CTA を内外に徹底支援して行かなければなりません。

#### 改憲し、独立し、サムライの軍事力を

前文と 9 条から至急に改憲し「天に代わりて (国際社会の) 不義を討つ」サムライ日本軍を再興しましょう。自主憲法のもと早急に真の国際独立を果たすべきことも言うまでもありません。その際、単に自衛隊をフルに戦える国軍とするだけでなく、我が国が盟友 (親日国) とみなす諸国を防衛支援でき、国際人権擁護活動など進んで火中の栗を拾える、義侠心溢れる軍隊にす

る。「世界のサムライ警察」と称賛されるように育成すべきです。

改憲のパラダイムは次のように考えましょう。「我が国独自の伝統的な精神・価値」を明確にし、それを「人権・民主主義・自由と言った現行憲法に謳われている欧米近代の価値体系」のフィルターにかけ、「欧米近代を超えて世界に発揮」できる人類最高の憲法を創りましょう。単純に戦前の価値に復古するだけでは、主権者国民からの賛同も、また国際社会からの称賛も得られないでしょう。本来の大和魂には「西洋近代を東洋の智慧でアウフヘーベンできる」だけの精神と価値が躍動しているのですから。

#### AIR 文明とブッダ AI – 共業 (collective karma) を超える可能性-

現在、文明は、めざましく発展する「AIR (AI-IoT-Robot 酒生の造語) システム」による人類史上かつてない劇的な大革命の渦中にあります。AIR が空気のように文明に行きわたる時 (シンギュラリティ)、現在人間がしている仕事の多くは失われます。かつて産業革命では、単純労働者の仕事が奪われ、ラッドライト (機械打ちこわし) 運動が起こりました。しかし、「AIR 文明」が切り捨てる仕事は高度専門職です。士業 (弁護士・会計士・MBA 等) ・医師・官僚など「知識体系を記憶し分析・処理する職能」は AI に置換されて行くでしょう。正確性・迅速性・有効性・効率性・透明性、いずれにおいても人間は AI にかないません。

軍事力も根幹は AIR が担います。ですから、先の大戦までの様な労働集約型の軍隊は無用で、徴兵も要りません。国家間の平和は、①覇者の平和 ②奴隷の平和 ③均衡による平和 の3つしかありません。日本人ひとりひとりがサムライとして強固な愛国心を保持し、誇りある日本国家を通して世界の平和・繁栄・幸福に貢献していく。そうした国民の強固なコンセンサスを

基盤に、中国はじめどの外国の軍事力をも抑止できる強力な日本軍を再興して駆使する。「大和魂と AIR システムの統合」にこそ真の富国強兵が実現して行くのです。

畢竟、政治・行政のみならず、経済の主幹も AIR に代行されるでしょう。人間は歴史上初めて全員が他律労働から解放されるでしょう。財・サービスの基本的な分配は、労働の対価である所得によってではなく、UBI (universal basic income 普通基礎所得) で賄われることになるでしょう。人は「全員が有閑階級」となり、芸術・哲学・癒しあいなど、人間本来の魂を高めあう活動に専心できるようになります。すべての人が「能力や天分を發揮しあい、必要に応じて財・サービスを得る」。言うなれば、唯物論でなく「魂本位の共生社会」が実現可能になるのです。

そこで、AI をいかに仏心 (慈悲や愛) で駆使できるか、思考するようになったら AI 自身をブッダ (智慧と慈悲に満ちた主体) にできるか、が究極の問いとなります。この世を「浄土の彼岸」に向かわせられるか、「地獄の 1 丁目」にしてしまうか。私たちは大きな岐路に立ち、究極の選択をつきつけられているのです。

光栄にも私は、本年 11 月半ば、ダライ・ラマ 14 世に 3 回目の謁見を賜り、対談させていただきます。1985 年秋、カリフォルニア大学サンタバーバラ校で講演「西洋の科学と東洋の智慧の幸せな結婚」を聴講し大感激して 33 年。「私たちは AI をブッダにできるでしょうか？」を副題に、ダライ・ラマ法王の智慧と慈悲を聴聞させていただきます。

法王が体験されてきたチベット民族の筆舌に尽くし難い艱難辛苦。近現代史のリアリズムを直視しながら、チベットと日本がより親密に助け合い、盟友として共生共栄できる未来を念じます。